

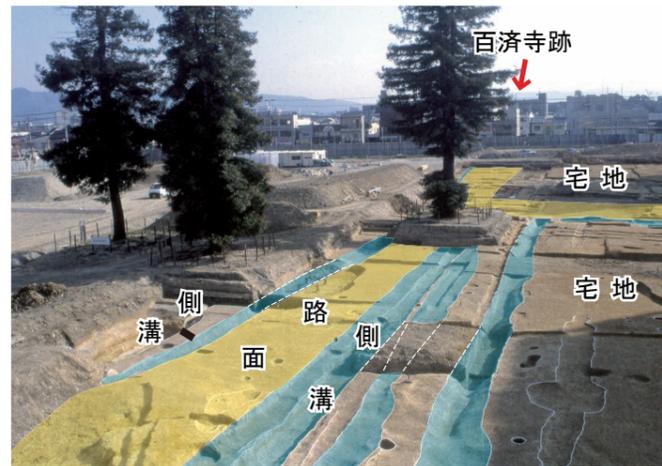
● 方形街区の街並み

禁野本町遺跡のこれまでの調査では、掘立柱建物、井戸、区画溝や南北・東西方向の道路状遺構を発見しています。第103次調査で見つかった南北の道路状遺構は、百済寺の南北中軸線を北へ延ばした線上に位置しており、それにほぼ直交する東西方向の道路状遺構も見つかっています。これらのことから、奈良の平城京のような碁盤目状の街路や街区(方形街区)が整った街並みが形成されていたと想定されます。

宅地内は、柵列や塀などで区画された土地に整然と建物を配置する形で整備が進められ、平安時代の初め頃(8世紀末～9世紀前半)には建物が最も多く建ち並び、最盛期を迎えます。この最盛期は、桓武朝とほぼ重なり、百済王氏が中央政界で活躍した時期とも符合します。



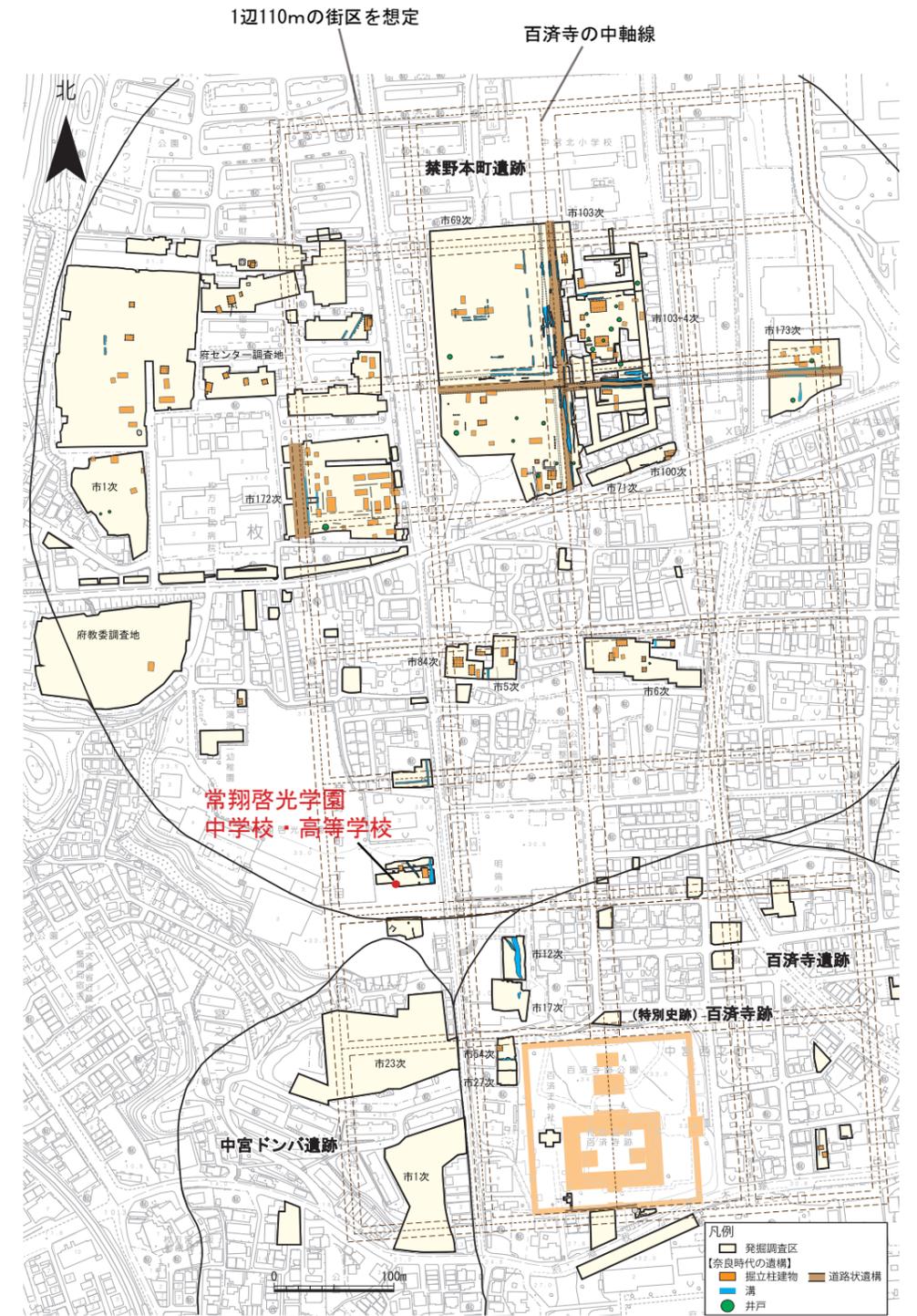
方形街区や百済寺と同じ方位で整備された掘立柱建物群 (第172次調査、東から撮影)



道路状遺構 (第103次調査、北から撮影)



平城京の復元模型 (奈良市所蔵)



(平成23年修正 枚方市地形図1:2500に加筆)

百済寺跡・禁野本町遺跡を中心とした方形街区の復元案

木簡

(第103-4次調査出土)

文字が書かれた木の札。奈良時代には、宮都や寺院、地方の役所などの遺跡から出土しており、貴重な紙に代えて、木簡で文書を交わしていました。



奈良三彩の壺

(第1次調査出土)

奈良三彩は奈良時代の高級品です。同じ形の壺が平城宮跡から出土し、東大寺に伝わるものもあります。

